

■5 エクステンションに関する事項

本学におけるエクステンション活動は、1989年の瀬田キャンパス開設を契機として、具体的な展開を迎えることとなった。瀬田キャンパス開設の使命の一つである「地域に開かれた大学の創造」は、まさにエクステンション（普及）の理念を具現化するものであり、それまで大学の使命として考えられていた「教育」と「研究」に加えて、新たに「エクステンション」活動を本学の第3の使命とすることとなった。

それ以来今日まで、本学の教育・研究の成果を広く社会に還元し、また社会に存在する多様な資源を大学の教育や研究に活用した上で、本学の教学の新たな発展を期し、様々な活動を行う中で地域に根ざした大学づくりをめざしてきた。

第4次長期計画においては、RECのミッションであるこのエクステンション活動を「社会連携政策」と位置づけており、長期計画最終年度である2009年度はその活動の一層の拡充をめざしている。今後の社会においては、これまで以上に地域との連携の重要性が高まることが予測され、「共生くともいき」を目指すグローバル大学」をスローガンに掲げる本学においては、より一層、エクステンション事業の重要性を強く認識し、それぞれの事業を展開していく必要がある。

1 生涯学習事業の展開

● 本学の特色を生かした講座の開講

生涯学習事業の中心となる「RECコミュニティカレッジ」は、本学の特徴を最大限生かすことができるよう、仏教・こころ、文化・歴史、文学をはじめ、外国語、資格コースなどの多種多様なジャンルの年間約430講座を開講する。龍谷講座は、これまでどおり深草キャンパスにて年間6講座を開講する。

● 受講者サービスの充実

RECコミュニティカレッジ終身会員制度及び履修証明制度の導入、本学卒業生、在学生の保護者等へのREC会員の年会費免除サービス、Webからの受講申込等が行える新REC講座システムの導入を実施する。

● 大阪および東京での事業展開

本学創立370周年を機に、大阪地域を「最重点開拓地域」と位置付け、「RECコミュニティカレッジ大阪」を拡張して年間60講座を開講する。また、首都圏における本学の認知度向上を目的とした「RECコミュニティカレッジ東京」は年間9講座を開講する。

● 地域社会との相互交流

京都市下京区誕生130周年連携企画、他大学との連携企画および地方自治体との連携講座など、地域性や社会動向、ニーズ等を考慮した講座の展開を行うことで、地域社会との積極的な相互交流を図るとともに、地域社会への知的資源の還元を目指す。

2 産官学連携事業の展開

● REC BIZ-NETの充実と地域施策との連携

これまでの事業展開により蓄積されたRECビジネスネットワーククラブ（REC BIZ-NET）をはじめとする産官学ネットワークを基盤として、さらなる事業展開を図る。具体的には、理工系・社文系とも産官学のマッチングにつながるような研究シーズの発掘と競争的学外資金の獲得に注力する。さらには、BIZ-NET会員企業（レンタルラボ企業を含む）や地域の中小・ベンチャー企業に対する研究開発支援やマネジメント支援等を行い、地域における産官学連携拠点となるべくネットワークの形成につとめる。さらには大津・草津地域における「地域企業立地促進等事業」とも連携を図り、地域産業の活性化・人材養成の支援事業を推進する。

● 学内組織の連携強化

特に学内においては、研究部と知的財産センターとの「三者一体」の連携により、研究成果の活用を促進する。また社文系研究シーズを活用した産官学共同事業や、地域連携事例集を元にした学内における横断的連携サポート・学外へのアピール、さらには2008年度に選定された内閣府・内閣官房「地方の元気再生事業」の継続をめざして、産官学連携による人材育成・人材確保に向けた取り組みを推進する。これらの推進にあたって、RECが立地する地域（京都、滋賀、東大阪）の特性を活かしつつ、大阪オフィスとの連携を図りながら、周辺自治体や産業支援機関・各種経済団体との連携など、地域社会との連携強化を図る。

3 施設開放の展開

● 施設開放の促進

エクステンション事業の一環として、RECホール（瀬田キャンパス）・紫光館（深草キャンパス）を中心とする施設の開放を促進する。

● 最新設備を用いた講座・セミナーの展開

2008年度事業において、RECホールにおけるAV機器等の設備を更新したことにより、最新のメディアを用いた生涯学習講座や産官学連携事業における研究会・セミナー等を開催する。

● 入居企業の拡充とサポート充実

RECレンタルラボについては、過去に退去した企業が新たな事業を展開する場合、再入居できるように制度を変更した。このような状況を踏まえた上で、入居企業の拡充とサポート充実、共同研究等の産官学連携をさらに活性化させる。

● 子ども一時預かりの実施

生涯学習講座におけるニーズに対応するため、RECホール内の一室を託児室として活用し、コミュニティカレッジの受講生を対象に、子ども一時預かり（土曜日に限定）を引き続き実施する。

4 学生ベンチャー育成事業の展開

- 時代のニーズにマッチした事業展開

ビジネスプランコンテスト『プレゼン龍（ドラゴン）』を中心に培ってきた8年間の実績と成果、さらには本事業を取り巻く環境の変化を踏まえ、時代のニーズにマッチした事業展開を目指す。

- キャリア開発部との連携

応用力・実践力を備えた学生の育成を目指す「教育事業」は、再構築・有料化した上でキャリア開発部が発行するパンフレットに掲載するなど、キャリア開発部との連携を強化する。またそれにより、就職活動においても役立つ自主性と積極性の養成も強化する。

- 創業支援体制の充実

学生ベンチャーの創出支援を目的とする「インキュベーション事業」は、起業を積極的に目指す学生を対象を絞り、産官学連携分野でのネットワークを活用するなど、支援体制の充実を図る。

- 学生主体による事業実施

ビジネスプランコンテスト『プレゼン龍』を始めとする「イベント事業」は、学生実行委員会の主体的な活動と位置づけ、起業家精神やビジネス社会への参画意識の啓発を行うものとして実施する。

5 福祉フォーラムの展開

- 基本方針

福祉フォーラムにおいては、2007年度から新体制のもとで地域（住民）やNPOを含めた社会福祉現場・専門職に焦点をおき、社会福祉や地域の現実が大学に要求しているものは何か、高等研究機関として本学が取り組むべき社会貢献活動とは何かといった点を考慮し活動してきた。2009年度も本方針に基づいて事業を展開する。

- 「共生塾」「専門セミナー」などの開催

2009年度は、引き続き、公開講座として「共生塾」およ

び「専門セミナー」を前期・後期に開講する。さらには、社会福祉をテーマとしたフォーラムを「福祉フォーラム2009」として10月に開催する予定である。また、事業の推進に際しては、収支のバランスについても配慮する。

- 会員制度の充実

会員向けフォーラム通信の発行などを通じて、フォーラム会員制度の充実をめざし、会員からの意見等を求め、福祉フォーラムに期待されている声を反映させながら、事業を展開する。なお、新体制のもとでの事業が3年目を迎える2009年度は、事業そのものの見直しを行う。

6 知的財産に関する取り組み

- 知的財産セミナーの新たな展開

2009年度は、2008年度に引き続き、発明の発掘や啓発活動を積極的に行うとともに、知的財産セミナーを瀬田学舎のみならず深草学舎で実施することで、全学的に知的財産活動を広める。

- 技術移転の活動

単独出願された発明については、技術移転を目指しREC等と連携を図りながら速やかに対応するとともに、新たな技術移転機関を模索・検討する。また、共同出願した発明についても、共同出願企業等と連携を図りながら、さらなる研究活動に結びつけるとともに事業化等を推進する。

- 特許出願から審査請求へ

今後も社会に還元される発明の特許出願を目指し、知的財産活動を展開するとともに、既出願案件の審査請求も滞りなく進める。なお、拒絶通知への対応は、顧問弁理士事務所及び顧問弁護士事務所と相談の上、権利確定を目指す。案件によっては外国での出願・審査請求も実施するとともに、引き続き、特許庁および発明協会等の関係諸機関との関係を維持していくことにも努める。